

事例1 ミスミグループ

製造業DXで時間価値を創出する
機械部品調達のAIプラットフォーム「meviy」

「meviy (メビー)」(<https://meviy.misumi-ec.com/ja-jp/>)は、ミスミが提供する機械(加工)部品の調達をWeb上で実現するデジタルサービス。部品の設計データ(3次元CADデータ)をアップロードすると、AIが即時に価格と納期を回答。製造プログラムの自動生成により最短1日出荷を実現。従来数週間かかっていた特注形状の機械加工部品を圧倒的なスピードで受注生産する。従来、取り扱うのは3次元データだけだったが、先ごろ、2次元図面をアップロードすると最短1日で見積り回答できる2Dサービスも開始した。

世界最大級のカタログ販売事業

ミスミの設立は1963年で、生産間接材と言われる機械部品を製造販売するグローバル企業である。最大の特徴は1977年から始めた精密機械部品を調達できるカタログ販売。このサービスがユニークなのは、在庫をストックして出荷するという単純なオペレーションではなく、受注生産をメインとしていることだ。商品点数3,000万点超のカタログからユーザーにスペックを選んでもらい、そこから受注して加工し、2日で届ける「確実短納期」をウリとする。これは、高度な生産システムとグローバルなサプライチェーンを維持・強化することによって初めて可能となるビジネスモデルだという。

今や同社のカタログ販売はこの分野における世界最大級のものであり、現在の売上高は約3,700億円弱。顧客数は約33万社で、2008年のリーマン・ショック後も年平均成長率12%という堅調ぶ



写真1 常務執行役員ID企業体社長の吉田光伸氏

りだ。「お客さまからは『電気・ガス・水道・ミスミ』と言われることもあるが、ミスミのカタログがないとラインが動かない、という自覚をもって日々、業務に励んでいる」と常務執行役員ID企業体社長の吉田光伸氏(写真1)は話す。

時間不足の解消に向けて

その同社がカタログ販売とは一線を画す事業として立ち上げたのが、機械(加工)部品の調達をWeb上で実現するデジタルサービスの「meviy(メビー)」である(図1)。製造業は日本の基幹産業であり国際競争力も高いが、近年、その労働生産性は下落の一途をたどっている。中でも人手不足や働き方改革関連法案による影響もあって時間不足が大きな課題となり、製造業は「量」から「質」への労働生産性改革への転換が製造要件となっている。近年は、設計業務ではCADやCAE、製造は自動化やロボット、販売はEコマースなどデジタル化による生産性向上が図られ、一定の前進は見られる。ところが調達領域では相変わらず紙図面が用いられるなど、この領域が生産性向上のボト